



姉の人生初アルバイト

岡山県・岡山県立岡山朝日高等学校 1年 佐藤 慎

僕には大学1年の姉がいる。夏休みに帰省していて、「人生初のアルバイトをしてみたい」と言った。小学校時代、中学高等学校時代、そして予備校時代の友人と久しぶりに会って遊ぶための軍資金が必要ということらしい。インターネットで検索したり、アルバイト情報誌を見て探していたが、帰省中の限られた期間内のアルバイトになるので、なかなか姉の条件に合うのがなくて困っていた。すると、登録制のアルバイトというのがあって、自分の名前や携帯番号、メールアドレスをあらかじめ登録しておく、アルバイト情報を知らせてくれて、自分がそのアルバイトをしたいと思ったら、その旨を返信するというシステムらしい。

姉が登録の手続きをして、しばらくするとその会社からメールが届いた。某有名衣料メーカーからの依頼だった。安価で品質も良いので急成長してきたメーカーで、全国にたくさんの店舗がある。今回は大型ショッピングセンター内にある店舗で、棚卸しをする仕事だ。僕は棚卸しというのは、棚から商品を出して、新品と入れ替える仕事かと思っていた。でも姉に聞くと、棚などにある商品の在庫を数える仕事だということだった。勤務時間は、夜9時から朝5時までの8時間で、途中で合計1時間の休憩をとるので、実労働時間は7時間ということだった。夜中に働くと聞いて驚いたが、お客さんがいない閉店中の時間にするためなのだろうと納得したが、僕はその時給に再びびっくりした。午後9時から10時までの時給は960円、午後10時から午前5時までの時給は1,200円だそう。途中1時間の休憩時間分を差し引いても $960円 + 7,200円 = 8,160円$ ということになる。この金額は僕にとっては大金である。夜眠らずに働くのだから、毎日続けるのは難しいだろうが、高校生の僕からすると一晩でこんなにたくさんもらえるのか、と感心した。

でもここで一つ疑問を感じた。なぜ午後10時を境に時給が変わるのかという

ことだった。そこで厚生労働省のホームページで賃金のことを調べてみた。会社は深夜に労働させる場合は、割増賃金を払わなければならないということがわかった。深夜の定義は午後10時から午前5時までで、この時間帯は通常賃金の2割5分以上の賃金を支払わなければならないそうだ。姉のバイト先の会社での通常時給が960円。そして深夜は $960円 \times 1.25 = 1,200円$ ということになるのだ。それにしても賃金に交通費などを加えると会社としては、1人当たり1万円近い賃金を支払うことになる。姉のようなアルバイトが何人来ていたのか聞いてみると、50人くらいいたそうだ。ということは、一晩で50万円くらいの人件費を支払うことになる。そんなにお金をかけてする「棚卸し」の意義は何だろうと思った。そこで、姉はまた2週間後に同じ会社の他の店舗の棚卸しに行くことになっていたのだから、僕の代わりにいくつか質問をして来てほしいと頼んだ。

2回目のアルバイトは午後10時から午前6時までだった。前回と比べて、始まる時間と終わる時間が1時間遅いだけなので、実労働時間も深夜労働時間の長さも同じだった。姉に頼んでおいたことについて聞いてみると、棚卸しは、一つの店舗につき年に3回行うということ、店舗によって多少ばらつきはあるが、一つの店舗につき16万点ほどの商品があるということがわかった。また、姉の仕事内容は、棚に並べてある商品に付いているバーコードを、一つ一つ器械で読み取って、そのデータを送信するというものだったそうだ。そして、その数が仕入れた数から売れた数を差し引いたものと一致するかどうかを確かめるそうだ。もし、一致しない場合は、姉たちの数え間違いか、万引きなどによる不足ということがわかるらしい。しかし、それを調べるためにかかなりの人件費がかかっているなと思った。姉の1回のアルバイト代が約1万円、そして同時に50人が行ったので、 $1万円 \times 50人 = 50万円$ 。この棚卸し作業を年3回行うので $50万円 \times 3 = 150万円$ の人件費がかかることになる。そして1店舗につき約16万点の商品があるので、1商品当たりの人件費は $150万円 \div 16万 = 10円$ ということになる。この計算方法が合っているのか、そしてかなり大雑把おおざっぱな計算かもしれないが、商品1点当たり10円分の棚卸し作業の人件費を見越して、価格をきめているのかなと思った。

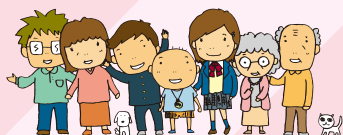
そこで棚卸しをする意味を自分で調べてみた。棚卸しをする目的はいくつか



あるが、まずは、「キズや破損で不良品となっている在庫をチェックしたり、長い間出荷されていない在庫をチェックするため」¹⁾ということだった。そして、姉から聞いたように、実際の在庫と帳簿上の在庫数をチェックするためであった。通常、在庫は帳簿を見ればわかるはずだが、実際は万引き被害や伝票処理が抜けていたりして数が合わないことがあるので、棚卸しをすることで正確な在庫数を確認して、今後の万引き防止策や在庫管理に役立てることができるということであった。更に、棚卸しという資産を把握するという目的があるのがわかった。棚卸しの資産というのは、例えば、今年度中に販売するためにA商品を5,000円で10個、B商品を1,000円で20個仕入れたとする。また、販売価格はAが7,000円、Bが1,500円とする。そして棚卸しをした結果、Aが5個、Bが10個残っていたとする。これらは、売るつもりで仕入れたが、売れていないので、店の資産ということになる。この場合、 $5,000円 \times 5個 + 1,000円 \times 10個$ だから3万5,000円が店の資産となる。これを棚卸資産というそうだ²⁾。一方、売れた商品で店に入った金額は、 $7,000円 \times 5個 + 1,500円 \times 10個$ なので5万円となる。しかし、仕入れに $5,000円 \times 5個 + 1,000円 \times 10個$ で3万5,000円かかっている所以、利益は1万5,000円となる。この利益からは人件費などの必要経費を控除²⁾した額が最終利益となる。棚卸しは会社が稼いだ1年間の利益や財産となる資産額を算定する上で重要な作業であることがわかった。また、棚卸資産を正確に把握することで、次年度まで資産として売れ残った商品を持っておくか、売値を安くしてでも今年度中に売ってしまうか²⁾、の判断をするということがわかった。

今回、姉の人生初のアルバイトを通して、棚卸しの作業内容や目的を知ることができた。「棚卸しのため本日休業」という張り紙を時々目にしていたが、休業にして行かう店は社員が行い、閉店時間から翌朝の開店前までに行かう店は、姉のようなアルバイトを雇ってするのかなどと思った。また、商品の価格には、社員の給料などの人件費や店の照明、エアコンなどの電気代などの経費だけでなく、棚卸しにかかる人件費なども含まれていることがわかった。

僕も大学生になったら、何かアルバイトをすることになると思うが、単に小遣いや生活費を稼ぐ手段としてではなく、経済について考える良い機会にしたいと思う。



(注)

1) 実務に役立つ在庫管理 URL <http://www.sk-zaiko.com/>

2) 個人事業の税と経理「棚卸しとは」 URL <http://homepage2.nifty.com/luminaries/business/006.htm>

<参考文献>

・厚生労働省「賃金」 URL http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/chingin/

